



仙台ユネスコ

<http://www.unesco.or.jp/sendai/>

発行：公益社団法人 仙台ユネスコ協会

会長 見上一幸

仙台市青葉区国分町三丁目1-1
(仙台第一生命ビル 5階)

電話 022-224-2581

FAX 022-302-3406

「キリバス共和国訪問記」

会長 見上一幸

東京羽田から空路で三日目、天候にも恵まれて空からは細長く伸びた環礁がはっきり見えました。外洋の濃紺、ブルーグリーン、ホワイトブルー、そしてサンゴの白へと移る美しさは感動でした。首都のあるタラワ環礁は、木々の緑で細く長く連なり、鏡に映した逆L字が大洋に浮いて見えました。ボーイング737が着陸できるような空港が一体どこにあるのかとっていると、細いL字の角いっぱい白く伸びたボンリキ空港の滑走路が現れ、飛行機は見事に着陸しました。タラップを降りて機外に出ると、11月なのに刺すような強い日差しと30℃を超える空気はまさに赤道を感じさせます。空港から車で市内のマネアバと呼ばれる集会所(植物パンダナスの葉で葺いた数百人も入れる大屋根の四方吹き抜けの建物)に向かい、南タラワ市長の計らいで、キリバスの伝統的な歓迎式典があり、花輪を頭に戴き、ヤシの実の果汁を受け、勇壮なキリバスの踊りの歓迎を受けました。このマネアバは国賓級の歓迎式典にも使われるそうです。

キリバス共和国は1941年から2年間日本軍の占領下にあり、特にタラワは激戦地であったようです。環礁西端の街ベシオの海岸には、日本人兵士の慰霊碑や大砲が残っていました。この国は、近年、地球温暖化による海面上昇に伴う海岸浸食で注目されていますが、島の標高が3m以下、陸地の幅が数百メートルしかないと知り、事情は容易に理解できました。また課題は海面上昇だけでなく、生活に必要な水は雨水を使用していて衛生的にも問題がありそうです。しかし、南タラワ市のパーロ市長の話では、最も重要なのは教育だということでした。高等学校の中退率が高く教育の質の向上が望まれ、日本の先生との交流を望むとのことでした。

滞在中、アノテ・トン前大統領のお宅にお招きいただきました。トンさんは知性豊かな親日家で、この国をリードしてきた懐の深さを感じました。月光の下に庭の木々の白い花が浮かび上がり、その下にテーブルが準備され、カバという飲みものをヤシの実の器で4杯もいただきました。カバはショウガの仲間の根から作られ、やや青臭い匂いと苦みがあり、間をおいて舌



に痺れを感じます。酒は飲むと気が高ぶり争いになるので、気持ちの沈むカバを飲むのだとのことでした。飲み過ぎると腰が抜けて動けなくなるので要注意です。暫くしてマネアバの中に案内され、「ボータキ」と呼ばれる心づくしの歓迎会がはじまりました。キャッサバ、タロイモ(里芋の味)、パンの実のフライ(パリパリして美味しい)、椰子ガニなど、珍しいものがたくさん出ました。どれもが美味で日本人の口に合うものでした。客が先に料理をいただき、迎える側は客の後でというのが習わしとのことでした。

街の道路脇には露店が出ていますが、看板もなく、見やすく商品が並んでいます。衣類を売っている店が一般の家の洗濯物が分かりにくく、直射日光のあたる場所に、ビニール袋に入った野菜や魚がつるしてあったり、表面が乾燥した大マグロが、きゃしゃな屋台に載った光景もありました。

宿泊は閑静なホテルで不便なく過ごせます。特に印象に残ったのは、街から離れた島での一泊でした。パンダナス葉でできた屋根のある高床式の小屋で、壁はなく、中央に吊られた蚊帳の中で、一晚中海を渡る風は涼しく、少年に帰ることのできた贅沢な一夜でした。日中も小屋からは、強い光の下でサンゴ礁の上に重なる透明な海の輝き、潮が水平線まで引いたときの純白の砂浜、これらはすべて幻想的な世界でした。

間もなく、このキリバスには、ユネスコ協会が生まれます。「神様が人をつくられた、だから一人ひとりの尊厳を大切に」と考えるこの国との今後の交流がとても楽しみです。

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々により、1947年(昭和22年)7月19日、世界で最初の「民間ユネスコ協力会」として誕生しました。

SALON & ZOOM講座

第2回「ヒカリ輝くあなたになる」
人蜜アートde表現講座
イキテルって素晴らしい～導入編～

11月18日開催した第2回講座の講師は、柴田人蜜さん。2021年横浜赤レンガ倉庫開催Christmas Art Convention in Yokohamaでグランプリ獲得、UNESCOパリ本部のミロホールに作品が展示された直後の講座でした。画家？アーティスト？表現者？先生？…既成のカテゴリーには収まらない多彩な活動をしている柴田さん。今回の講座は、絵かな？造形遊びかな？といったところ。

コンテを粉にし、柴田さんのモチーフである羽根を浮かび上がらせる表現の道具は「指」。童心に戻って楽しみました。色の組み合わせで、それぞれ個性的な作品ができあがり、SALON参加の6名は大満足。額に入れて飾ろうと、大事に持ち帰りました。

体験させていただいたメタバースとは、コンピュータの中に構築された3次元の仮想空間のこと。専用のVR(virtual reality仮想現実)装置を装着し、柴田さんが創った仮想空間に入り込みました。その綺麗なこと！

今回の講座は、「導入編」とのことです。次回以降のお約束もいただきました。どんな表現活動をご提案いただけるのか、とても楽しみです。

(内藤恵子 記)



講師の柴田人蜜さん



作品を持って記念撮影

第3回「精進料理の茶懐石を味わう」

令和4年12月3日第3回ユネスコサロン&ズーム講座「精進料理の茶懐石を味わう」が遠刈田の雪月花利休庵にて開催されました。現代の名工にも選ばれた仙台ユネスコ協会参与の佐藤信氏による精進料理と利休庵主佐浦公美さんのお点前を参加者6人で頂きました。

最初利休庵の待合で蜜柑茶を頂き、冷えた手と体を温め、亭主(佐浦さん)の案内で正客から順に会場へ。後の続く方に「お先に」と挨拶しながら中へ入ると大きな窓から冬枯れの木立ちが目に飛び込み、一瞬で非日常の空間に誘われました。机には亭主の筆による万葉集の短歌と今日の献立が置いてあり、目を通しているとご挨拶から始まり、折敷に飯椀と汁椀、向付が載せられ運ばれて来ました。飯椀には亭主の知り合いの方が作った天日干しのひとめぼれが盛りられています。汁椀はお出しの効いた白味噌仕立ての優しいお味。向付をはじめすべての料理はその時期の旬の物、講師自ら栽培した無農薬野菜が中心で、どれも美味しく感動の連続でした。料理を頂く際の礼儀作法や、仏教の戒に基づく精進料理の意味も教わり、心ゆくまで堪能致しました。食事の後は亭主のお点前で薄茶を頂き、ゆったりとした最高の時間を過ごしました。(早川麻由利 記)



利休庵主 佐浦公美さんのお点前



参与 佐藤信氏

第25回子ども絵画展

「絵で伝えよう！わたしの(町の)たからもの」

1月17日(火)～22日(日)、ユネスコ子ども絵画展 第25回「絵で伝えよう！わたしの(町の)たからもの」が東北電力グリーンプラザ・アクアホールで開催されました。

今年は、小学校27校、中学校15校の参加があり、244点の応募がありました。

会場にすべての作品を展示し、作者のメッセージもスライドショーにより作品と共に紹介しました

コロナ禍にあり一昨年は展示が中止を余儀なくされ、昨年は表彰式ができないというような状況でしたが、子ども絵画展も25回と回を重ねることができました。

期間中1012人の方にご来場いただき、子どもたちの作品を見ていただきました。「素晴らしい絵が多いです。」「色彩豊かですね。」「子どもたちの感性はすごいですね。」等々の感想をいただきました。

最終日には多くの保護者の参加をいただき、3年ぶりに表彰式を行うことができました。

入賞者には西條副会長よりひとりひとりに賞状が手渡され、作品と共に記念撮影をし、宮崎審査委員長より、入賞者への心のかもった講評をいただきました。(原一代 記)



ユネスコ会員企業紹介

～SDGsの取り組みについて～

ユニグランド(株) 我妻土地家屋調査士事務所

代表取締役・土地家屋調査士 我妻 諭氏

「人と土地に寄り添い未来を繋ぐ」

先の震災の年に開業以来、当事務所は皆様のお支えの下、歩み続けて今年で13年目を迎えることができました。



生業としている土地家屋調査士の業務とは、不動産の表示に関する登記につき必要な土地又は家屋に関する調査及び測量を行う専門家として、不動産の物理的状況を正確に登記記録に反映させるために、必要な調査及び測量を行っています。具体的には、不動産（土地又は建物）の物理的な状況を正確に把握するためにする調査、測量の事を言い、例えば、土地の分筆登記であれば、登記所に備え付けられた地図や地積測量図等の資料、現地での状況や隣接所有者の立会い等を得て公法上の筆界を確認し、その成果に基づき測量をすることになります。

そして、この業務を行う上で取り組む持続可能な開発目標（SDGs）を念頭に入れた活動としましては、狭あい道路の解消に際し、緊急車両等の乗入れ困難

な道路環境の整備、災害時の避難経路の安全確保等、土地家屋調査士としての見識と能力を生かした方策を提言、実行することで地域防災と地域互助に寄与し、以て皆様の生活に資するものと考えおります。



また、所有者不明土地問題に関する一連の法整備は、土地基本法、や相続登記義務化、土地・建物の新たな管理制度の創設等々、多岐にわたり国民生活に影響を及ぼす事態が過分に想定されます。これにおいても専門職者としての期待を背負うことを意味すると考えており、安定した社会生活を提供する職責を全うする覚悟しております。

今年から当事務所において「土地家屋調査士」を目指す学生を中心としたインターンシップの受け入れを始めました。就労体験を経て職業理解が進み、就職活動の精度を高めていただくことを目的としております。

これら持続可能な活動を通して、大きな未来に繋ぐ～を使命とし、社会に貢献し得るよう研鑽を続けて、皆様の生活を繋ぐ架け橋となれるようこれからも歩んで参ります。

〒982-0023 仙台市太白区鹿野3丁目11番43-101号
TEL.022-302-6694

松栄不動産（株）

松栄不動産(株)は、昭和44年の設立以来、不動産売買、賃貸仲介管理をはじめ、月極駐車場運営やコインパーキング事業、イベントホール経営など行い、地域の皆様に親しみを持って頂ける不動産会社を目指してきました。



弊社は地元密着の一環として、地域行事にも積極的に参加しております。仙台東口すずめ踊り、仙台駅東口清掃活動、榴岡天満宮天神神輿講、榴岡小学校定期行事など、1年を通して活動を行なっております。特に将来を見据えて榴岡小学校の4年生を中心に行なっている「弟子入り留学」という生徒の職場体験の受け入れ先として仕事の楽しさなどを教え、子供たちと触れ合う機会も大切にしております。

本社を構える仙台駅東口エリアでは、平成27年に仙台駅東口開発区画整理事業が完了し、同年に地下鉄東西線の開通により、人流が増えてマンション建設が進みました。特に榴岡小学校の児童数が平成22年頃と比べて約2倍近くに増えたことから、いかに子育て世帯が増えたことがわかります。

そして今年ヨドバシ仙台第1ビルが4月に竣工するなど、大型商業施設をはじめ街並みや不動産市場

は年々変化してありますが、弊社は長い間仙台駅東口に拠点を構えて、地域の方々や物件オーナー様との信頼関係もあって続けてこられました。

弊社の経営理念の一つでもある「謙虚にして驕らず、人格を高め、地域社会に貢献する」を念頭に置き、引続き業務に励みたいと思っております。

社員同士の連携を向上し社内の風通しを良くしていき、今まで通り地域の方々や、日頃お世話になっているお客様、オーナー様、関係会社様とは今後も良い関係性を築き、杜の都の不動産トータルコンサルタントとして日々取り組んでおります。

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡1丁目2番8号
TEL.022-295-5080 FAX.022-256-3023
<https://www.shoei-fudosan.co.jp/>

ユネスコ情報交換会

コロナ禍で中断をして
おりました「ユネスコ情
報交換会」を3年ぶりに
12月15日(木)DUCCA仙台
駅前店で35名参加のとも
開催いたしました。



第1部の活動報告会で
は当協会が日頃から取り組んでおります国際交流の中
で昨年11月1日から民間ユネスコ協会設立支援として
見上会長と内藤副会長がキリバス共和国(南タワラ市)
を訪問しキリバス共和国の実情について体験すること
で、キリバス共和国の暮らし、文化、さらに、課題に
ついて理解し交流を深められた報告がありました。

第二部では中村前会長の乾杯の後、参加された方々
からスピーチをいただき会員同士、親睦を深めること
ができました。(松坂宏造 記)

第78回ユネスコ全国大会

in木更津

2022年度の全国大会は「第78回日本ユネスコ運動in
木更津」と題し、2022年11月26日(土)12時から、千
葉県木更津市かずさアカデミアホールを会場にして開
催されました。

「誰一人取り残さない平和で持続可能な未来を目指し
て～オーガニックシティ木更津からの発信～」をテー
マとするパネルディスカッションでは、木更津市長から
「目指しているオーガニックは、持続可能な未来を創
るため、地域、社会、環境に配慮し、主体的に行動し
ようとする考え」との基調講演があり、パネラー二人
から関連する取り組みが発表されました。特徴ある発
表に聴講者は意識の多様
化を感じ取ることができ
ました。

仙台ユネスコ協会から
は、見上会長以下、青年
部2名を含む8名が参加し
ました。(赤塚吉雄 記)



パネルディスカッションの会場の様子

国際連合豆知識

「国際デー」を知っていますか?国際機関によって定められた記念日で、特定の事項に対して特に重点的問
題解決を、国連をはじめ全世界の団体・個人に呼びかけるための日です。1年間に185の国際デーがあり、3月21
日のように1日が5つの国際デーになっている日もあります。たとえば10月5日の「世界教師デー」は、ユネスコ
が制定した国際デーのひとつです。日本ではほとんど知られていませんが、
多賀城高校の交流相手校「Sacred Heart高校」で、こんな張り紙を見つけ
ました。「Happy World Teachers' Day」とあります。先生たちの心構え
を示している標語に感動して思わずシャッターを切りました。

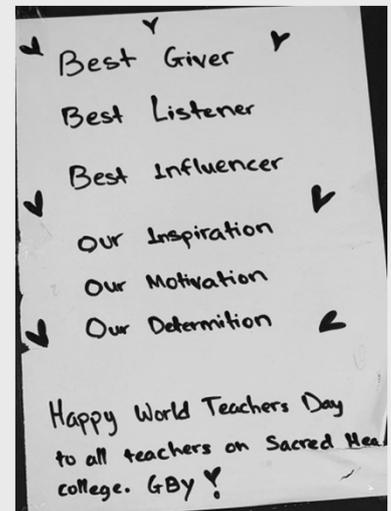
他に1年をかけて取り組む国際年や国連年(2023年は国際雑穀年、2024年
は国際ラクダ年だそうです)、私たちが取り組んでいるSDGs(持続可能な
開発目標)は2015年に採択され2030年を目標とする15年間の行動計画です。
国連の10年として10年間の期間を設定する「国連海洋科学の10年(2021~
2030)」には海洋立国である日本は特に力を入れています。(内藤恵子 記)



Giver 与える人
Listener 聞く人
Influencer 影響を与える人

Inspiration ひらめき
Motivation 動機、意欲
Determination 決断

GBY=God Bless You 神の恵みがありますように



これからの行事予定

- 定時総会 開催日:5月25日(木)10時~
- 民間ユネスコ運動の日記念行事
開催日:7月9日(日)14時~
場 所:仙台福祉プラザ 1階プラザホール

会員募集 あなたも参加しませんか!

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、世界で初め
ての民間ユネスコ運動の団体として、1947年7月
19日に誕生しました。あなたのご参加をお待ち
しています!

団体会員(一口)年会費	20,000円
個人会員(一口)年会費	5,000円
青年部会員(一口)年会費	2,000円

仙台ユネスコ協会 会員数

団体会員	84
個人会員	136
青年部会員	14
合 計	234

(1月末現在)

【編集委員】

松坂 宏造 小泉知加子
伊藤 律子 岩山 浩一
佐藤 皇季 千葉 雅保

【編集後記】

ユネスコ会報471号をお届けします。今回の特集はなんとと言っても「キリバス共和国訪問記」。昨年11月に見上会長、内藤副会長が赤道近くにある国「キリバス」を表敬訪問しました。このキリバスにも、ユネスコ協会が生まれるというのです。仙台ユネスコ協会は、身近なことから世界各国に向けて活動しています。お仲間に加わって、いっしょに活動しませんか。
仙台ユネスコ会報編集長 小泉知加子